

# 養液土耕法によるゆり栽培

## 1. 試験のねらい

養液土耕法におけるハイブリッドゆりの養水分管理プログラムを作成するため、施肥量の差が品質に及ぼす影響を品種別に検討した。

## 2. 試験方法

標準区の養水分施用量を表 - 1 のとおりとし、半量区および倍量区を設けた。供試品種はオリエンタル系 3 品種、アジアティック系 9 品種とし、植え付けは平成 9 年 12 月 5 日に行った。温度管理は、昼温 20℃、夜温は 1 月 16 日までは 10℃、以降は 15℃ とした。

オリエンタル系は球根サイズ 18~20cm を用い条間 15cm、株間 15cm の 5 条植え、アジアティック系は 12~14cm を用い、条間 12cm、株間 15cm の 7 条植とした。

表 - 1 標準区の養水分管理

成分別施用量 (mg/m <sup>2</sup> )	定植 (12/5)	~ 3週 (12/26)	~ 5週 (1/9)	~ 6週 (1/16)	~ 12週 (2/27)
NO <sub>3</sub> -N	0	60	84	168	灌水はドリップチューブ(吐出力 38mL/分,30cmピッチ)を75cm幅の ベットに2本設置した。
NH <sub>4</sub> -N	0	60	36	72	
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0	360	360	720	
K <sub>2</sub> O	0	40	360	720	
灌水量 ( /m <sup>2</sup> )	2.72	1.36	0.34	0.34	

注. 灌水は 12/26 までは 6:00~15:00 に 8 回 / 日、26~1/9 が 4 回 / 日、それ以降は 8:00 の 1 回 / 日とした。液肥は 8:00 の灌水時に施用した。

## 3. 試験結果および考察

(1) 土壌抽出液中硝酸態窒素濃度および EC は施用量が多い区ほど高く推移したが、最も施用量が少ない区で、収穫直前の 2 月 12 日以降高く推移し、収穫後の残存も認められた。(図 省略)

(2) 草丈は、品種の差はみられるが施用量が多くなるに従って高くなり、特に少量区において発蕾期までの生育が劣った。(図省略)

(3) アジアティック系の切り花品質は、施用量の差により切り花長、切り花重の差がみられ、少量区は特に劣った。しかし、中量および多量区の差はわずかであった。また、開花期、葉数、着蕾数、蕾長、茎の硬さについては差が認められなかった。(表 - 2、一部省略)

(4) オリエンタル系ゆりの切り花品質は、アジアティック系同様に、切り花長、切り花重で差がみられたが、オリエンタル系では中量および多量区の差も明らかであった。開花期、葉数、着蕾数、蕾長、茎の硬さについては差が認められなかった。(表 - 3)

これらのことから、アジアティック系ゆりでは、中量区の養水分管理が適しているものと思われるが、オリエンタル系では、多量区の養水分管理が品質的に優れていた。

## 4. 成果の要約

施用量の違いは切り花長、切り花重に与える影響が大きく、開花期、蕾数等には影響が小さいことが明らかとなった。アジアティック系では中量区の養水分施用量が適していたが、オリエンタル系ではさらに高い施用量が必要と思われた。

(担当者 花き研究室部 鈴木智久\*) \* 現塩谷農業振興事務所

表 - 2 アジアティック系ゆりの開花期および品質

品種名	施用量	開花日	切花長 cm	切花重 g	葉数	着蕾数	蕾長 cm	茎径 mm	茎の硬さ
レガタ	少	2/16～2/27	83.3	85.5	138	11.2	5.37	7.5	5.0
	中	2/18～3/3	89.0	94.8	135	10.8	5.73	7.1	4.8
	多	2/16～2/27	87.6	88.8	133	10.3	5.28	7.2	4.9
ネ口ネ	少	2/16～3/5	80.7	54.3	82	4.8	6.25	6.2	4.0
	中	2/16～3/3	85.2	59.6	86	4.7	6.21	6.7	4.1
	多	2/16～3/2	87.4	61.2	72	4.8	6.08	6.7	4.2
モナ	少	2/12～2/27	57.2	53.8	76	6.2	6.07	6.9	4.7
	中	2/16～3/5	62.7	57.3	77	5.6	6.48	6.4	4.4
	多	2/10～2/27	64.7	58.6	77	5.6	6.30	6.4	4.3
メイアップ <sup>o</sup>	少	2/20～3/2	64.5	49.0	90	5.0	6.20	6.2	3.6
	中	2/20～3/5	72.4	62.0	94	4.7	6.38	6.0	4.5
	多	2/17～3/2	72.6	63.4	96	4.6	5.56	6.5	3.8

注) 切り花品質調査方法

切花長 : 切り口から頂花(蕾)の先端までの長さ

切花重 : 切り花直後の重さ

葉数 : 頂花(蕾)から切り口までの葉数(落葉も含む)

着蕾数 : 開花したものを含む

蕾長 : 初めに着色した蕾の長さ

茎径 : 最下位の花の付け根から切り口までの中間位置の径

茎の硬さ : 指数で示す

1 - 切り口を持ち縦にしたとき、茎が水平になるまで曲がるもの

2 - 切り口を持ち縦にしたとき、茎が45°まで曲がるもの

3 - 切り口を持ち縦にすれば曲がらないが、水平にすると曲がるもの

4 - 水平にしてもやや曲がる程度

5 - 水平にしてもほとんど曲がらないもの

表 - 3 オリエンタル系の開花期と切り花品質

品種名	施用量	開花日	切花長 cm	切花重 g	葉数	着蕾数	蕾長 cm	茎径 mm	茎の硬さ
カブラカ	少	4/7～4/9	71.4	127.3	57.7	4.3	12.3	6.0	3.0
	中	4/6～4/9	87.2	160.7	58.3	4.3	13.5	6.9	4.0
	多	4/5～4/9	92.9	176.0	61.3	4.5	12.9	7.2	3.1
ルーブル	少	3/19～3/24	87.7	121.1	64.7	4.3	11.1	6.9	4.4
	中	3/23～3/28	81.3	105.1	61.7	4.1	11.0	6.7	4.6
	多	3/15～3/27	93.7	120.4	66.0	4.2	10.6	6.8	4.4
メデイトリーニ	少	3/19～3/20	66.7	79.6	46.3	4.7	10.4	5.5	2.9
	中	3/20～3/30	71.3	72.4	49.3	3.8	10.8	5.4	3.1
	多	3/15～3/25	77.7	86.2	50.1	4.0	11.0	5.8	3.2

注) 切り花品質調査方法はアジアティックに準ずる。